



Title	作家の語彙と造語力 : サイド・アフメド・モハメドの短編集から
Author(s)	竹村, 景子
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 1991, 2, p. 18-47
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71068
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

作家の語彙と造語力

— サイド・アフメド・モハメドの短編集から —

竹村景子

この論文の目的は、タンザニアのザンジバル（ペンバ島）出身で、スワヒリ語で書く作家として著名な、サイド・アフメド・モハメド（Said Ahmed Mohamed, 1947年生まれ）の短編集に見られる語彙の調査を基に、「スワヒリ語の語彙の増やし方」についての作家的努力を明らかにし、その語彙の増やし方の特徴を語形成論の立場から考察することである。資料としたのは、*Si Shetani Si Wazimu* (Zanzibar Publishers Ltd., 1985. B5版 47ページ) 収録の8篇の短編小説である。同短編集に見られる全ての語彙について、スワヒリ語の代表的な辞書である *A Standard Swahili-English Dictionary* (F. Johnson, Oxford University Press, 1939) と *Kamusi ya Kiswahili Sanifu* (Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili, Chuo Kikuu cha Dar-es-Salaam, Oxford University Press, 1981) の収録語彙と比較検討することにより、この作家の語形成面での努力を明らかにしてみたいと考えたのである。

I. 作品中での作家の表現特徴について

語形成そのものについて考察する前に、この作家の表現特徴として代表的と思われる事例を3つ挙げておく。いずれも語彙の増やし方と密接に関連している。

(1) 感嘆詞、間投詞、擬声・擬態語を多用する。

【例】

① Hfye! Nilishusha pumzi. 「フーッ! と私は大きく息をついた。」

(“Siri ya Maisha”, p.18)

この例でのhfyeは、訳語として「フーッ」をあてているが、疲れた時に椅子にどっかりと腰を掛けながら、溜息と共に出す声を文字表記したものである。間投詞としては他に、ho「待て、やめろ」（人や行為を制する時に言う言葉）もある。

② (Mbiliwili) Walibiruka na kubingiria hewani kwa hashuo na namna asiyoielewa mwanadamu. 「(つばめ達は)人間には到底理解出来ないようなアクロバット飛行をしな

がら、空中を飛びまわっていた。」 (“Nyuma ya Pazia”, p.30)

この例でのbirukaという動詞は、このコンテキストでは「アクロバット飛行をする」という訳語をあてているが、元々は、子供などが連続して前転する様子を、‘biru, biru, biru…’という擬態語を使って表現したものである。

③ Funda jingine na jingine nilihisi machango yangu yanayayatika. 「一口、一口と飲む度に、私は（酒が）五臓六腑にしみわたり、キリキリ痛むのを感じていた。」

(“Siri ya Maisha”, p.22)

yayatikaという動詞は、「（胃などが）キリキリ痛む、シクシクと泣く」という意味で、擬態的、あるいは擬声的な語である。以上のような、間投詞や擬声・擬態語は、文章表現に生彩を与え、感覚的な描写に効果的であることから、多用される傾向にある。

(2) 比喩，擬人法を駆使する。

【例】

① kibatali kilichokuwa kikipiga mapezi 「（魚がヒレを動かすように）ゆらゆらと動いているランプ」 (“Siri ya Maisha”, p.22)

piga mapeziという動詞+名詞のイディオムは、元々は「魚がヒレをゆらゆらと動かす」という意味であるが、このコンテキストでは、風に揺れるランプの動きを、魚のヒレの動きに見たてているのである。

② vito vya fedha vinavyopwita na kuchekelea daima 「キラキラと輝きながら、絶え間無く微笑み続ける（銀色の宝石達）星達」 (“Nyuma ya Pazia”, p.34)

vito vya fedhaは、直訳すれば「銀色の宝石達」となるが、このコンテキストではそれを「星」に見たてている。chekelea daimaは、「絶え間無く微笑み続ける」と直訳してみたが、星の輝く様子を擬人化しているものである。なお、二重線を施した動詞pwitaは、「キラキラと一定のリズムで輝く」という意味の擬態語である。比喩，擬人化という手法も、読者のイメージを広げるためには効果的であり、イディオムや成句を伴うことも多く、語彙の意味領域を増やしていく際にも影響力がある。

(3) 同義語の程度差を明らかにして、表現に幅を持たせる。

【例】

① Mzee huyu kavaa kaptura kubwa la kaki si kiasi chake, ba-mshati wa zambarau iliyokwabuka. 「この老人は、サイズの合わない大きなカーキ色の半ズボンをはき、色褪

せた紫色の全く大きすぎるシャツを着ていた。」

(“Siri ya Maisha”, p.18)

ba-mshatiは、基本形shati（英語shirtの借用）に、ba-とm-という2つの接頭辞を付加したものである。このように基本形に接頭辞をいくつか付加することで、基本的意味に程度差をつけることができる。例えばこのshatiの場合、いくつかの接頭辞の組み合わせにより、次のように意味の程度差をつけられる。(右方向へ進むにつれて段々大きなシャツになる)

kijishati < kishati < shati(基本形) < mshati

< jishati < mjishati < ba-mshati < ba-mjishati

ba-mshatiの代わりに、例えばごく一般的な表現である shati kubwa sana「特別に大きなシャツ」を使うこともできるが、その場合にはごく陳腐な表現に墮してしまい、読者に対するイメージの喚起力は相当弱められてしまうだろう。こうした努力は、スワヒリ語の表現に幅を持たせるだけでなく、スワヒリ語の語彙を増やしていく上で重要な位置を占めている。接頭辞を付加して意味の程度差を明らかにする例として、次の「波」も挙げておく。(右方向へ進むにつれて段々大きな波になる)

kijiwimbi < kiwimbi < wimbi(基本形) < mwimbi < jimbi < mjimbi < ba-mjimbi

但し、これらの例はあくまでもスワヒリ語の接辞付加の形態論的規則に基づいて造語したものであり、実際にどの程度まで使用されているかということについては、なお今後の調査が必要である。

この他に、類義語の意味領域・程度差を明確にする努力もはらわれている。次にその2例を挙げる。

* 貧乏 → 裕福

uhohehahe(右も左もないほどの極貧) < uchochole(非常に貧乏) < ufukala(かなりの貧乏)

< umaskini(貧乏) < ujipato(何とかやっているとける状態) < utajiri(裕福) < ukwasi(神ほどの力を持っている状態)

* 心配 (右方向へ進むにつれて段々程度が大きくなる)

wasiwasi < wahka < wahshi < tafshani < dukuduku

これらの類義語が意味の程度差を持ちはじめた理由として、例えば、元々バンツー語起源の単語があり、後からそれに類似した意味の借用語がアラビア語などから入ってきた結果、各語が固有の意味の場を担うようになったと考えることも可能である。‘nina wasiwasi.’ 「私は心配している」と言うのと、‘nina tafshani.’ 「私はものすごく心配している」と言うのとでは、全くニュアンスが違っている。(日本語においても、例えば「心配」と

「心痛」と「心労」は、その持つ意味に少しずつ違いがある。)これらの類義語群は、語形成論の対象とはならないが、各語の意味領域を明確化することで語彙の体系を豊かにするものであろう。

以上見てきたように、この作家の全般的な表現特徴もまた、スワヒリ語の語彙の増加と深い関連性がある。そこで使用される語彙は、自らの表現努力の中で、現在一般に使用されている語彙以上に適切だと判断されたものであり、当然先にあげた代表的な辞書に収録されていない語彙の使用が多くなるのである。次にその種の語彙について詳しく分析していくこととする。

II. 作品中での作家の使用語彙について

ここでは、8篇の短編小説における使用語彙について行なった、2つの作業を紹介しておく。但し、調査語彙一つ一つについての詳細な言及は不可能であるため、いくつかの代表的な例を挙げるにとどめた。資料の全体は、p. 32からの《表1》及び《表2》を参照されたい。

(1) 使用語彙全体の中で、代表的な2冊の辞書に収録されていないものを以下の3種類に分類した。

- ①作家自身がスワヒリ語の造語法にのっとして自分で造語したもの
- ②実際の言語生活で使用されており、ザンジバルの生活者から見て、その使用頻度が高いにもかかわらず、辞書に収録されていないもの
- ③新しい学術用語、作家などが文学用語として随時使用する語、あるいは元々はペンバ方言に独特な語彙であるために辞書に収録されていないもの

次に、それぞれを【A₁: 単一語, A₂: 成句, B: 派生語, C: 複合語】にわけ、更に【1: 語源が擬声・擬態語である語, 2: 方言、又は標準スワヒリ語の正書法の綴りと異なる語, 3: 語源がアラビア語以外の外来語である語, 4: 疊語】のように下位分類し、品詞分類も行なった。(但し、略号として【n.: 名詞, v.: 動詞, adj.: 形容詞, adv.: 副詞, int.: 間投詞】のように表記する。)その結果、以下のような数字が出てきた。

①: 3語

B-n.: 2語 ,

C-2-n.: 1 語

②: 129 語

A₁-n.: 10 語 , A₁-v.: 13 語 , A₁-adj.: 1 語 , A₁-adv.: 1 語 ,
A₂-n.: 1 語 , A₂-adv.: 2 語 , A₁-1-v.: 6 語 , A₁-1-adv.: 2 語 ,
A₁-1-int.: 2 語 , A₁-2-v.: 5 語 , A₁-3-n.: 3 語 ,
A₁-1.4-adj.: 1 語 , A₁-1.4-adv.: 2 語 ,
B-n. → n.: 26 語 , B-v. → n.: 11 語 , B-adj. → n.: 5 語 ,
B-n. → v.: 2 語 , B-v. → v.: 9 語 , B-n. → adj.: 3 語 ,
B-v. → adv.: 1 語 , B-1-v. → n.: 3 語 , B-1-v. → v.: 2 語 ,
B-2-v. → n.: 1 語 , B-2-v. → v.: 1 語 , B-3-n. → n.: 4 語 ,
C-n.: 7 語 , C-v.: 1 語 , C-adj.: 3 語 , C-adv.: 1 語

③: 10 語

A₁-n.: 3 語 , A₁-2-v.: 2 語 ,
B-n. → n.: 1 語 , B-v. → n.: 2 語 , B-2-v. → n.: 1 語 ,
B-2-v. → v.: 1 語

この結果を見る限り、②が圧倒的に多く、その中でもB、つまり派生語が68語となっていて最も多い。また、①～③を全て合わせた場合でも、派生語の占める割合が約52.8%と過半数を超える。更に複合語も合わせて考えた場合には、全体の約62%になる。この結果が示す通り、辞書に収録されていない語彙と言っても、ザンジバル地方の生活者の間で一般的に使用されている語彙は、スワヒリ語の造語パターンを踏んで造語されたものが多い。辞書に収録されている語彙のみがその言語の全体像を示すのではない、ということの証拠であろう。

では、造語の実際を検討してみることになろう。次に挙げる表は、p.32からの資料の抜粋である。なお、表中で Johnson とあるのは、前掲の *A Standard Swahili-English Dictionary* を、また、Sanifu とあるのは、同じく前掲の *Kamusi ya Kiswahili Sanifu* を指し、それぞれの欄には収録されていなかった語彙の関連語を掲載している。

①

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
[1] mjivuni	n. 誇り高い人, 高慢ちきな人 pl. wajivuni <v. jivuna<vuna	(jivuna) (註1) vuna	jivuna vuna
[2] wio	n. 存在すること, 「ある」ということ <v. wia<wa	wa	wa
[3] uwanadini	n. 宗教的であること, 宗教に固執していること <n. uwana + n. dini	uana, dini	dini

②

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
[4] gonda	n. 太い声, 男らしい声		
[5] kakatima	adj. 同情のない, 冷酷な		
[6] sako kwa bako	adv. 肩を寄せあって, 隣合って		
[7] yayatika	v. (胃などが) キリキリ痛む, シクシクと泣く		
[8] ba-mshati	n. 体に合わないほど大きすぎるシャツ pl. ba-mishati <n. shati(English)	shati	shati
[9] dodofya	v. 試す, (核心部分を知るために) 人に尋ねる <v. doda	doda	
[10] jumlisho	n. まとめ, 集合 pl. majumlisho <v. jumlisha	jumlisha	jumlisha
[11] kimaumbile	adj. 自然の, 当然の <n. maumbile	maumbile	maumbile
[12] viskuta	n. 50ccの小型バイク sg. kiskuta <n. skuta(English)		skuta
[13] mjalana	n. 神罰が下るような人 pl. wajalana <n. mja + n. laana	mja, laana	mja, laana
[14] njanombichi	n. ライトイエロー, レモン色 <n. njano + adj. mbichi	manjano -bichi	manjano -bichi

③

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
[15] tashihisi	n. 擬人化		
[16] tauria	n. 婉曲		
[17] anura	v. 干していたものを取り寄せる <v. anika	anua	anua
[18] kiimbo	n. イントネーション pl. viimbo <v. imba	imba	imba
[19] mwenda	n. 気のふれた人 pl. wenda <v. enda	enda	enda

[1]は動詞から名詞へ派生した例である。動詞jivunaは、「自慢する」という意味で、これ自体もvunaという動詞に再帰接辞jiがついた派生形であるが、それに名詞接頭辞 m-（複数形はwa-, 人間を表す）を付加し、更に語尾を -iに変化させることにより、動詞→名詞の派生を行なったわけである。また[2]は[1]と同様に動詞派生名詞であり、wa「ある」という動詞をwiaという形に派生させ、更にその語尾を-oに変化させて名詞化したものである。[3]は名詞+名詞の複合語形成の例である。uwanaは、「子供」の意のmwanaの接頭辞をmw-からu-に変えて抽象名詞化したものであり、「子供であること」、「人であること」といった意味になり、diniは「宗教」という意味であることから、これら2語を合成すると「宗教的であること」という意味になるわけである。以上の3例は作家自身の造語によるものであるが、いずれもスワヒリ語の基本的な造語法にのっとっており、それらの派生以前や複合以前の形を容易に識別できることから、正確な意味を推測することはそれほど困難ではない。

[4]～[7]までは単一語及び成句である。[7]は擬声語（あるいは擬態語）であり、yayaの部分「胃などが痛むときの音、または状態」を表している。[8]はI-(3)の例に挙げたように、基本形はshati「シャツ」で、これに2つの接頭辞を付加したものである。最初の接頭辞ba-^(註2)は「巨大なこと」を意味する接頭辞であり、次のm-（複数形はmi-）^(註3)は「大きなこと」を意味する接頭辞であるから、「体に合わないほど大きすぎるシャツ」という意味になる。[9]は自動詞→他動詞の派生の例である。基本形はdoda「何かを手に入れようと試みて成功する」であり、これに派生接尾辞の-fyaを付加したものである。

[10]は動詞派生名詞の例で、jumlishaという動詞の語尾を-oに変化させたものである。接頭辞が現れていないが、ゼロ接頭辞が付加されていると考えてよい。[11]は名詞派生形容詞の例である。maumbile「自然」という名詞に、形容詞的働きをする接頭辞ki-を付加したものである。[12]は名詞に接頭辞を1つ付加した形であるが、基本形が外来語である点特徴的である。skutaは英語のscooterの借用形であり、それに更に「小さいこと」を意味する接頭辞ki-(複数形vi-)を付加している。[13]は名詞+名詞の複合語の例である。mjaは「ある状態に入った人」のことであり、laanaは「神罰、神の怒り」という意味であるから、これらを複合することにより「神罰が下るような人」という意味になる。[14]は名詞+形容詞の複合の例である。njano(manjanoの接頭辞ma-が欠落した形)は、カレー粉の色の素であるターメリックの色の意味であるから、かなり濃い黄色を指している。mbichiは、形容詞-bichiが先のnjanoにコンコードした形であり、この意味が「生の、まだ熟していない」ということなので、複合すると「ライトイエロー、レモン色」という意味になる。これら[4]~[14]の多くは、ザンジバル地方の生活者にとっては日常的な語彙であるが、大陸側で使用した場合には、おそらく咄嗟には意味が通じないことがあるかも知れない。特に[4]で見られる接頭辞ba-, m-の使用はかなり珍しい。とは言え、関連語が既存の辞書に収録されているものは、その意味を推測することは容易であり、今後一般に広まっていくことも予想される。

[15]と[16]は、学術専門用語であり、アラビア語起源の語でもある。これらについては、「アラビア語文法にのっとった派生形は、スワヒリ語の話者にとっては単一語として考えられる(註4)から、派生語としては扱わない」という立場を取っておく。こういった学術専門用語も、タンザニアのBAKITA(Baraza la Kiswahili la Taifa)「国語審議会」から出版されている *Tafsiri Sanifu (Standard Translations)* などにも紹介されており、将来的には使用範囲も広がるのが予測される。[17]はanika「干す」という動詞の反意形anuaの方言形である。スワヒリ語の古形式は母音間の流音l, rを残していることが多く、このanuraも標準形に比べてより古い形であると言える。[18]も学術専門用語である。動詞imbaに「小さいこと」を意味する接頭辞ki-(複数形vi-)を付加し、更に語尾を-oに変化させて名詞化したものである。[19]も同じく動詞派生名詞であり、endaという動詞に名詞接頭辞mw-(複数形wa-, 人間を表す)を付加したものである。一般に「気のふれた人」という意味で使われるのはmwenda wazimu という複合語であるから、「省略」と考えることも

可能である。[15], [16], [18]などは、従来は英語などの外国語の単語をそのまま引用しなればならなかった概念である。これらがこれからのスワヒリ語の語彙の拡張において果たしていく役割は、やはり重要なものとなってくるに違いない。

(2) 派生語、複合語（疊語を含む）の形態上の分類

この作業では、(1)で分類した中の派生語と複合語（疊語を含む）に注目し、その形態的特徴から、まず次の5種類に分類した。

- ①接頭辞が一つ付加された語
- ②接頭辞が二つ付加された語
- ③派生接尾辞が付加された語
- ④複合語
- ⑤疊語

更に、各々について、派生や複合の仕方及び品詞について分類を行なったが、(1)と同様、全てについては言及できないので、典型例を挙げながら結果の概要を説明したい。

まず、①については、接頭辞が一つ付加されたことによって品詞がどのように変化したか、ということで以下のA～Dに分類した。

Aは名詞 → 名詞の変化（ゼロ変化）を行なった語彙であり、これらを更にi～iiiに下位分類した。i.は指大、多量を意味する接頭辞が付加されたもの（ゼロ接頭辞を含む）である。これに属する語は6語ある。例としてはdaniがあり、次のように表せる。

dani : < kidani... (ji-)/ma- + [ki]dani 「玉の大きなネックレス」

つまり、基本形はkidaniであり、その接頭辞ki-と、ゼロ接頭辞（接頭辞ji-が現れない形）が「交替」していると考えれば良い。ii.は、縮小、侮蔑などを意味する接頭辞が付加されたもので、8語ある。例としてはkibuibuiがあり、次のように表せる。

kibuibui : < buibui... ki-/vi- + buibui 「価値のないブイブイ」

iii.は状態、抽象性などの意味を付与する接頭辞が付加されたもので、10語ある。例としてはmaluwiluwuがあり、次のように表せる。

maluwiluwu : < kiluwiluwu... ma- + [ki]luwiluwu (単数形はない) 「幻想, 幻影, 昼気楼」

これはi.のdaniと同様、基本形であるkiluwiluwuの接頭辞ki-と、ma-が「交替」したと考えれば良い。ここで注目したいのは、ma-という接頭辞が常にi.でどのように「指大」や「多量」を意味するわけではない、ということである。

次にBは動詞 → 名詞の変化を行なった語彙である。これにも i ~ iii の下位分類がある。i. は接頭辞+動詞語幹+接尾辞-iまたは-oという形で、13語ある。例としてはjumlishoがあり、次のように表せる。

jumlisho : < jumlisha... (ji-)/ma- + jumlish[a] + o 【ji-/ma- + R + o】 「まとめ, 集め」
この場合、接頭辞はゼロ接頭辞（接頭辞ji-が現れない形）と考える。ii. は接頭辞+動詞語幹（または動詞語幹+接尾辞-a）+接尾辞-ziまたは-jiという形で、4語ある。例としてはkumbukiziがあり、次のように表せる。

kumbukizi : < kumbukia < kumbuka... φ + kumbuki[a] + zi 【φ + R + zi】

「覚えている状態, 思い出している状態」

iii. は接頭辞+動詞（語幹+派生接尾辞）の形で、3語ある。例としてはmwendaがあり、次のように表せる。

mwenda : < enda...mw-/wa- + enda 【mw-/wa- + R+a】 「気のふれた人」

Cは形容詞 → 名詞の変化を行なった語彙で、この種類には接頭辞+形容詞しかなく、3語ある。例としてはupujufu (25) があり、次のように表せる。

upujufu : -pufufu...u- + -pufufu 「無関心なこと」

Dは名詞 → 形容詞の変化を行なった語彙で、これも接頭辞+名詞という形のみであり、3語ある。例としてはkimaumbileがあり、次のように表せる。

kimaumbile : < maumbile...ki- + maumbile 「自然の, 当然の」

②については、名詞 → 名詞に変化（ゼロ変化）したもののみの例がある。これらは i. 指大, 多量や侮蔑を意味する接頭辞が付加されたもの、ii. 縮小, 侮蔑などを意味する接頭辞が付加されたものに分類できる。i. は3語あり、例としてba-mshati がある。その形成過程は次のように表せる。

ba-mshati : < shati...ba- + m-/mi- + shati

【ba- : 巨大なことを意味する, m-/mi- : 大きいことを意味する】 「体に合わないほど大きすぎるシャツ」

ここで注目したいのは、標準語文法で一般的に説明されているのとは違う意味で使われる接頭辞が存在することである。上の例において、二つ目の接頭辞m-（複数形mi-）は、「大きいこと」を意味しているが、一般的にはmti/miti「木」やmmea/mimea「植物」などの語が含まれる名詞クラスの接頭辞として知られているものである。ii. は2語あり、その例としてはvijiwimbiがある。語形成の過程は次のようになる。

vijiwimbi : < wimbi...ki-/vi- + ji- + wimbi

【ki-/vi- : 小さいことを意味する, ji- : 前の接頭辞の意味を更に強調する】 「非常に小さな彼」

この例のji- も、①-i. で使われたような「指大」や「多量」を意味する接頭辞ではなく、「前の接頭辞の意味を更に強調する」働きをする。これらの接頭辞についての更に詳しい調査が必要である。

③については、A. 名詞 → 動詞, B. 動詞 → 動詞, C. 動詞 → 副詞のように分類した。Aは2語ある。

jumuika : < jumla...jumu + ika 「集まる,まとまる」

mahanika : < mahana...mahan + ika 「たくさんの仕事に従事する」

第2例は、名詞mahana「たくさんの仕事, 様々な仕事」を意味するアラビア語からの借用語に-ikaというスワヒリ語の派生接尾辞を付加したものである。この種の例には、他にshughuli「仕事」> shughulika「仕事する」がある。

Bは10語あり、その例は以下の通りである。

chachafya : < chacha...chacha + fya [-fya : 他動詞化する] 「ねだってだだをこねる」

dodofya : < doda...dodo + fya [-fya : 他動詞化する] 「試す, (核心部分を知るために)人に尋ねる」

rovya : < rowa...ro + vya [-vya : -fyaの異形態] 「濡らす」

これらの例は、いずれも派生接尾辞が付加されたことにより、他動詞化したものである。chachafyaの基本形chachaは、「いらいらしている, 怒っている」という意味で、これに-fyaが付加されて「ねだってだだをこねる」という意味になる。dodofyaは、doda「何かを手に入れようと試みて成功する」という基本形に、やはり-fyaが付加されて「(核心部分を知るために)人に尋ねる」という意味になっている。またrovyaは、rowa「濡れる」の語尾が-vyaに交替したものであり、「濡らす」という意味になっている。

Cは1語のみの例がある。

yombo : < yumba...yomb + o [R + o] 「斜めに, 傾いて」

基本形 yumba「揺れる」の語幹の第一母音uが、oに変化している。こうした母音交替もまた語形成の一つの方法である。

次の④については、i~ixに下位分類を行なった。まずi. は名詞+名詞→名詞という合成が行なわれたものである。これは4語あり、例としては次のようなものがある。

wanakijiji : wana + kijiji 「村人(同じ村に住んでいる人を指す)」

これはwana(単数形mwana)「子供」とkijiji「村」という名詞を合成したものである。ii. は名詞+名詞→形容詞という合成が行なわれたもので、これは1語のみ例がある。

kijituuzima : kijitu<ki+jitu + uzima 「成人している, 罰も済んで大人になった」

これはkijitu(名詞語幹-tuに、接頭辞ki-とji-が付加された形)と uzima(形容詞-zimaにu-という接頭辞が付加されて、抽象名詞化した形)が合成されたものである。iii. は名詞+形容詞→形容詞という合成が行なわれたもので、これも1語のみ例がある。

kijitukizima : kijitu<ki+jitu + kizima<-zima 「成人している, 罰も済んで大人になった」

これは前のii. の例と意味は同じだが、合成の仕方が異なっている。kijitu(ii. と同様)という名詞と、kizima(形容詞-zimaに、kijituにコンコードしたki-という接頭辞が付加された形)という形容詞を合成したものである。iv. は名詞+形容詞→名詞という合成が行なわれたもので、これは2語ある。

njanombichi : njano<manjano + mbichi<-bichi 「ライトイエロー, レモン色」

ukalimoto : ukali + moto 「烈火のような怒り」

第1例は、II-(1)-[14]で詳しく説明した。第2例はukali(-kaliという形容詞に接頭辞u-が付加されて抽象名詞化した形)「怒り」という名詞と、moto「熱い」という形容詞を合成したものである。v. は動詞+動詞→動詞という合成が行なわれたもので、例は次の1語のみである。

vundumka : vund<vunda + umka 「突然太る, 急に膨らむ」

これは vunda「膨らむ」という動詞と、umka「膨らむ」という動詞が合成されたもので、類義語の合成により意味が一層強調された例である。vi. は動詞+名詞→副詞という合成が行なわれたもので、この例も次の一語のみである。但しこの語については、合成の仕方が次のように二通り考えられる。(註6)

sambejambe : ① sambe<sambaa + jambe<jambo

② sambe<siambe + jambe<jambo

「無秩序に, めちゃくちゃに」

vii. は接頭辞+動詞+名詞→名詞という合成が行なわれたもので、1語のみ例がある。

uchwejua : u-(名詞接頭辞) + chwe<chwa<cha + jua 「日没」

viii. は接頭辞+動詞+名詞→形容詞という合成が行なわれたもので、これも1語のみ例がある。

manyalia : ma-(形容詞接頭辞) + nya<nyauka + lia<milia 「スモークして生乾きの」

但しこの例は、動詞と名詞の一部分を結合させて新しい語形を造っていることから、「混淆」の例と見ることにもできる。最後にix.は、数詞+数詞→名詞という合成を行なったものであり、これも1語のみ例がある。

mbiliwili : mbili + wili 「つばめ」

⑤は、i. 形容詞+形容詞→形容詞と、ii. 動詞+動詞→副詞に分類した。i. の例は次の1語である。

kacharakachara : kachara + kachara 「ガタガタの、ボロボロの、とても古い」

ii. の例は次の2語である。

chupuchupu : chupu<chupa + chupu<chupa 「辛うじて、間一髪で」

kupekupe : kupe<kupia + kupe<kupia 「目をしばたかせて」

これら3語はいずれも擬声語あるいは擬態語であり、こういった擬声・擬態語の疊語は他にも存在している。

III. まとめにかえて

ザンジバル系の作家の作品には、概して辞書に収録されていない語が多数見られることが、II. の(1)及び(2)の作業結果から明らかである。それらの語の特徴として、辞書に収録されている既存の語に接頭辞が1~2つ付加されていることや、動詞に接頭辞と名詞形成の接尾辞が付加されて名詞になっていること、動詞に各種の派生接尾辞が付加されて意味の精細な区別をもうけていることなどが挙げられる。今回の資料においては、単一語及び成句の類で辞書に収録されていないものも多かったが、派生語、とくに接頭辞が一つ付加されたものが非常に多かった。このことは、語の意味領域に幅を持たせることになっており、読む側の柔軟なイメージ形成に大きく貢献している。また、今回の資料では少なかったが、作家自身による造語も更に多く存在することが予想される。作家という立場からのスワヒリ語の語彙を増やす努力は、これからのスワヒリ語の語彙の拡充、各語の意味領域の確定など、在来の標準スワヒリ語(とくにその辞書編纂)に与える影響はかなり大きいものであろうと期待されるのである。

(補記)

この論文の骨子は、1991年5月25日(土)、26日(日)に国立民族学博物館で行なわれた、日本アフリカ学会第28回学術大会で「スワヒリ語の語彙の増やし方(Ⅱ)」と題して発表した。その折に有益なご助言を賜わった方々に感謝したい。特に大阪外国語大学客員教授のサイド・アフメド・モハメド氏からは、論文作成の過程で何かとご教示を頂いた。記して心より御礼を申し上げたい。

(注)

1. 見出し語ではないが、説明文の中にこの形が言及されている。
2. この接頭辞が、「巨大なこと」を意味する接頭辞として、ザンジバル地方の、それもペンバ島だけに限られて使用されているのかどうかを明らかにするには、更なる用例の収集と検討が必要とされる。
3. この接頭辞についても、2.と同様に、更なる用例の収集と検討が必要とされる。
4. tafsiri「翻訳」とfasiri「翻訳する」、ajabu「驚き」とstaajabu「驚く」等がその例である。
5. 形容詞-pujufu「無関心な、恥じのない」は、本来は動詞pujua「皮を剥く、脱穀する」から派生した語である。同じ派生の例として、動詞kuaからの形容詞-kuu「大きい」の派生がある。
6. ①のように、sambe<sambaa「広がる、散らす」+ jambe<jambo「物、事」という合成から、「物事を散らす」→「無秩序に、めちゃくちゃに」と意味の変化が起こったと考えられるが、②のように、sambe<siambe<si+ambe「言な」+ jambe<jambo「物、事」という合成によるものだとする説もある。

《表1》使用語彙全体の中で辞書に収録されていないものを次の三種類に分類する。

【記号】 < □□ : 派生前の形又は語源など, () : 見出し語ではないが、直接の語源となるもの, n. : 名詞, v. : 動詞, adj. : 形容詞, adv. : 副詞, int. : 間投詞, sg. : 単数形, pl. : 複数形

【語の分類】 A₁ : 単一語, A₂ : 成句, B : 派生語, C : 複合語

1 : 語源が擬声・擬態語である語, 2 : 方言、又は正書法の綴りと異なる語, 3 : 語源がアラビア語以外の外来語である語, 4 : 疊語

①作家自身がスワヒリ語の造語法にのっとって自分で造語したもの (3語)

B-n.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
mjivuni	n. 誇り高い人, 高慢ちきな人 pl. wajivuni <v. jivuna<vuna	(jivuna) vuna	jivuna, vuna
wio	n. 存在すること, 「ある」ということ <v. wia<wa	wa	wa

C-2-n.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
uwanadini	n. 宗教的であること, 宗教に固執していること <n. uwana + n. dini	uana, dini	dini

②実際の言語生活で使用されており、ザンジバルの生活者から見て、その使用頻度が高いにもかかわらず、辞書に収録されていないもの (129語)

A₁-n.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
aiyosa	子供の遊びの一種		
gamu	心配, 恐れ	ghamu	ghamu * ₁
gonda	太い声, 男らしい声		
kuti	助かること		
muuya	激しい争い, 戦い		
nishai	酔いの心地良さ		
tafshani	心配, 恐れ		

tasnifa	からかうこと * ₂		
tende	ナツメヤンの酒	tende	tende * ₃
umeta	遊び, 踊りの一種		

A₁-v.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
bawibu	騙す		
duhushi	非常に大事にする, 甘やかす	duhushi	duhushi * ₄
dumua	歯や手でほんの少しちぎり取る		
dungua	高い所にあるものを、何かを投げるなどして得る, 手に入れる		
finga	覆い隠す, 暗くする	finga	finga * ₅
kuna	魅きつける, 興奮させる, 嫌わせる (状況により変化)	kuna	kuna * ₆
kurupusha	失敗を隠すために事をうやむやにする		
kwabuka	日にあたりすぎたため、あるいは古くなって色があせる		
nyari	人を計りにかけながら見る		
shobwekea	へこむ		
sowera	そよぐ, 情感をこめてゆっくり歌う, 風雅に踊る		
staghafiru	神に慈悲を祈る		
staladhi	味を見る, 一人で楽しむ * ₇		

A₁-adj.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
kakatima	信用・信仰の無い, 同情の無い, 冷酷な		

A₁-adv.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sanifu
chordo	大変に酔っ払って		

A₂-n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
dhofu-l-hali	やつれた様子，衰えた様子		

A₂-adv.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
mashekhoof	心配せずに		
sako kwa bako	肩を寄せ合って，隣合って		

A₁-1-v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
biruka	アクロバット飛行をする		
fakamia	ものすごい早さでたくさん食べる		
poroja	くだらないおしゃべりをする >n. porojo	porojo	porojo
pwita	キラキラと一定のリズムで輝く	pwita	pwita *。
tuturika	心臓がドキドキする		
yayatika	（胃などが）キリキリ痛む，シクシクと泣く		

A₁-1-adv.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
to to to	カチ、カチ、カチ（時計の音）		
twii	しっかりと聞いて		

A₁-1-int.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
hfye	疲れた時に、座りながら溜息と共に出す声，フーッ		
ho	人や行為を制する時に言う言葉		

A₁-2-v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
biginya	のどをしめる, かきむしる		bigija, ming'inya
boboja	くだらないことをしゃべる	boboka	boboka
chubua	味見するために、液状の食物をちょっとなめてみる		chubuwa
mwaia	こぼす, まき散らす, 流す	mwaga	mwaga
sokomoa	咳払いをする	kokomoa	kokomoa

A₁-3-n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
buti	車のトランク <boot(英)		
fuluku	幸運、運が良くて転がりこんでくるもの <fluke(英)		
meksi	(服の) くるぶし丈の長さ <maxi(英)		

A₁-1, 4-adj.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
kacharakachara	ガタガタの, ポロポロの, とても古い <adj. kachara		kachara

A₁-1, 4-adv.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
chupuchupu	辛うじて, 間一髪で <v. chupa	chupa	chupa * ₃
kupekupe	目をしばたたかせて <v. kupia	kupia	kupia

B-n. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
ba-mshati	体に合わないほど大きすぎるシャツ pl. ba-mishati <shati	shati	shati
dani	玉の大きなネックレス pl. madani <kidani	kidani	kidani

guo	大きな服 pl. maguo <nguo	nguo	nguo
jipandikizi	大変に大きいもの, 非常に巨大なこと pl. mapandikizi <pandikizi	pandikizi	pandikizi
kibuibui	価値の無いブイブイ pl. vibuibui <buibui	buibui	buibui
kidongo	ある特殊な土, 作品中では「人の家」を 指す pl. vidongo <udongo	udongo	udongo
kigongo	こん棒 pl. vigongo <gongo	gongo	gongo
kikoa	のどぼとけ pl. vikoa <koa	koa	koa
maamuru	神の意志 <amri	amri	amri
maghani	長く音を伸ばして歌う様子 <ghani	ghani	ghani * ₁₀
majambo	大変重大なこと, 奥に秘密が隠されてい るようなこと <jambo	jambo	jambo
majipesa	非常にたくさんのお金 <pesa	pesa	pesa
makarama	神の予期せぬ助け, 天の助け <karama	karama	karama
maluwiluwi	幻想, 幻影, 蜃気楼 <kiluwiluwi	kiluwiluwi	kiluwiluwi * ₁₁
manusura	助かること, 危険から逃れること <nusura	nusura	nusra, +nusuru
mijineno	意味の無い, 真実性の無い多くの言葉 <nenno	nenno	nenno
minoti	たくさんの紙幣, お金 <noti	noti	noti
mshati	大きめのシャツ pl. mishati <shati	shati	shati
ukwenzi	騒ぎ, 騒ぎ声 <kwenzi		kwenzi
usalihina	神を畏れ, 一心不乱に宗教を信仰するこ と <salihina	salihina, msalihina	
ushehe	(イスラム教の) 導士であること <shehe	shehe	shehe

viale	若芽, 若枝 sg. kiale < ?		
vichenga	非常に細かい破片, 細かく砕いた粒 sg. kichenga < chenga	chenga	chenga
vigalawa	小さいカヌー sg. kigalawa < ngalawa	ngalawa	ngalawa
vijichangarawe	非常に細かい粒の石 sg. kijichangarawe < changarawe	changarawe	changarawe
vijiwimbi	非常に小さな波 sg. kijiwimbi < wimbi	wimbi	wimbi

B-v. → n.

語	意味及び複数形 (単数形) 並びに関連語	Johnson	Sainfu
jumlisho	まとめ, 集合 pl. majumlisho < jumlisha	jumlisha	jumlisha
kipalizi	のどに何か物が上がってくる状態, 吐き 気を催している状態 pl. vipalizi < palia	palia	palia
kumbukizi	覚えている状態, 思い出している状態 < kumbuka	kumbuka	kumbuka
mangojeo	待つこと < ngoja	ngoja	ngoja
mapuza	馬鹿にすること, 蔑むこと < puuza	puuza	puuza
mtapanyiko	(無秩序な) 広がり pl. mitapanyiko < tapanyika	tapanyika	tapanyika
ukaazi	ある場所に座っている (居る) こと < kaa	kaa	kaa
ulemaji	悪霊を追い払うこと < lema	lema	lema
utaaradhi	何もかもが気にいらぬ様子 < taaradhi	taaradhi	taaradhi
visokotero	球状毛 sg. kisokotero < sokota	sokota	sokota
wiano	お互いに合っていること, マッチしてい ること < wiana < wia < wa	wa	wa

B - adj. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
mbivu	幸運, 良いこと <-bivu	-bivu	-bivu
mchochole	大変貧乏な人 <-chochole ?		
mkofu	病気のせいなどで大変痩せこけている人 pl. wakofu <-kofu		
unyevelyevu	湿り気, 水気 <-nyevu	-nyevu	-nyevu
upujufu	無関心なこと <-pujufu	(-pujufu)	-pujufu

B - n. → v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
jumuika	集まる, まとまる <jumla	jumla	jumla
mahanika	たくさんの仕事に従事する <mahana		

B - v. → v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
chachafya	ねだってだだをこねる <chacha	chacha	chacha
chagavyana	霊にとりつかれて叫び声を上げる <chaga	chaga	chaga
demka	腰を使って踊る <dema		dema
dodofya	試す, (核心部分を知るために) 人に尋ねる <doda	doda	
emewa	何をしたらいいかわからなくなる <emea		
fufurishia	(~のために) 急いで食事を作る <furika, fufurika ?		furika, fufurika
jibena	大変努力する <bena		
rovya	濡らす <rowa	lowa	rowa
yongoya	ゴソゴソ動く, 小刻みに震える	yonga	yonga

B - n. → adj.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
kileo	この頃の(但し、-a kileo の形で) <leo	leo	leo
kimaumbile	自然の, 当然の <maumbile	maumbile	maumbile
kitajiri	お金持ちの(但し、-a kitajiri の形で) <tajiri	tajiri	tajiri

B - v. → adv.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
yombo	斜めに, 傾いて <yumba	yumba	yumba

B - 1 - v. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
mmeremeto	輝き, 光 pl. mimeremeto <meremeta	meremeta	meremeta
mtokoto	沸騰している様子 pl. mitokoto <tokota	tokota	tokota
vichopochopo	料理に味を副えるために加える物, おい しい食べ物 <chopa	chopa	chopa

B - 1 - v. → v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
bwiduka	波が音を立てて打ち寄せる <bwia	bwia	bwia
gugumka	しゃくり上げて泣く, 嗚咽する <gugumia	gugumia	gugumia

B - 2 - v. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
mwaiko	こぼすこと, まき散らすこと pl. mimwaiko <mwaika	mwaga	mwaga

B - 2 - v. → v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
twama	留まる, 澱む <tua	tuama, tua	tua

B-3-n. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
kizoro	ブイブイを着て目だけ見せること pl. vizoro <zoro(?)		
mahonda	125cc以上の大型のバイク sg. honda <honda(日)		
urogi	騙すこと <rogue(英)		
viskuta	50ccの小型バイク sg. kiskuta <skuta<scooter(英)		skuta

C-n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
kitikiti	二人の人間が組んだ腕の上に人を乗せて、 歌いながら踊る子供の遊びの一種、転じて、 何人かの人が一人の人間を担ぐ状態 を指す(疊語でもある) <n. kiti + n. kiti	kiti	kiti
mbiliwili	つばめ <mbili+wili(数詞 + 数詞)	mbili, wili	mbili, wili
mjalana	神罰が下るような人 pl. wajalana <n. mja + n. laana	mja, laana	mja, laana
njanombichi	ライトイエロー, レモン色 <n. njano + adj. mbichi	manjano -bichi	manjano -bichi
uchwejua	日没 <名詞類群 u + v. chwe + n. jua	cha, jua	cha, jua
ukalimoto	烈火のような怒り <n. ukali + adj. moto	ukali, moto	ukali, moto
wanakijiji	村人 (同じ村に住んでいる人を指す) sg. mwanakijiji <n. wana + n. kijiji	mwana, kijiji	mwana, kijiji

C-v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
vundumka	突然太る, 急に膨らむ <v. vunda + v. umka	vunda	vunda

C-adj.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
kijitukizima	成人している，割礼も済んで大人になった た 〈n. kijitu〈mtu + adj. kizima〉-zima	kijitu, -zima	-zima
kijituuzima	成人している，割礼も済んで大人になった た 〈n. kijitu〈mtu + n. uzima	kijitu, uzima	uzima
manyalia	スモークして生乾きの 〈ma + v. nya〈nyauka + n. lia〉mlia	nyauka, mlia	nyauka, mlia

C-adv.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sainfu
sambejambe	adv. 無秩序に，めちゃくちゃに * ₁₂		

③新しい学術用語、作家などが文学用語として随時使用する語、あるいは元々はペンバ方言に独特な語彙であるために辞書に収録されていないもの（10語）

A₁-n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
tashbihi	n. 比喩		
tashihisi	n. 擬人化		
tauria	n. 婉曲		

A₁-2-v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
lenga	投げる		
matuka	拔足指足で歩く，爪先で歩く	nyatuka	nyatuka

B-n. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
kimatumatu	爪先で歩いているもの pl. vimatumatu 〈matumatu	matumatu	matumatu

B - v. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
kiimbo	イントネーション pl. viimbo <imba	imba	imba
mwenda	n. 気のふれた人 pl. wenda <enda	enda	enda

B - 2 - v. → n.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
rero	見ること <rora ?		

B - 2 - v. → v.

語	意味及び複数形（単数形）並びに関連語	Johnson	Sanifu
anura	干していたものを取り寄せる <anika	anua	anua

- * 1 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「ghamu : 悲しみ、同情」とある。
- * 2 : アラビア語の派生方式にのっとっている語であるので、スワヒリ語では単一語として扱う。
- * 3 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「tende : ナツメヤシ」とある。
- * 4 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「duhushi : 探索する、詮索する」とある。
- * 5 : 'Johnson' には「finga : 泥棒に入られないように家を守る」とあり、「Sanifu」には「finga : 危険を避ける、注意する」とある。
- * 6 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「kuna : ひっかく、かきむしる」とある。
- * 7 : * 2 を参照。
- * 8 : 'Johnson' には「pwita : 鼓動する、ズキズキ痛む」とあり、「Sanifu」には「pwita : 大きく息をつく、ズキズキ痛む」とある。
- * 9 : 見出し語としては収録されていないが、「Sanifu」では「nusra : もう少いで～するところで」の項に同義語として収録されている。
- * 10 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「ghani : 歌う、歌」とある。
- * 11 : 'Johnson' にも 'Sanifu' にも、「kiluwilwi : ボウフラ、おたまじゃくし」とあるが、他に、油が水に浮いた時のほじくような様子も意味する。
- * 12 : 複合の要素は、①sambe<v. siambe(sitambe : 「言な」の意) + jambe<n. jambo と
②sambe<v. sambaa(広げる、散らすの意) + jambe<n. jambo の二通りが考えられる。

《表2》派生語及び複合語を語の形態で分類する。

【記号】< □□ : 基本形, () : 接辞の欠落, [] : 基本形の接辞の欠落

R : 動詞語幹, 「 」 : 意味

①接頭辞が一つ付加された語

A. 名詞→名詞

i. 指大, 多量を意味する接頭辞が付加されたもの (ゼロ形式を含む)

- dani : < kidani... (ji-)/ma- + [ki]dani 「玉の大きなネックレス」
guo : < nguo... (ji-)/ma- + [n]guo 「大きな服」
jipandikizi : < pandikizi... ji-/ma- + pandikizi 「大変に大きいもの, 非常に巨大なこと」
mahonda : < honda... (ji-)/ma- + honda 「125cc以上の大型のバイク」
minoti : < noti... mi- + noti (単数形はない) 「たくさんの紙幣, お金」
mshati : < shati... m-/mi- + shati 「大きめのシャツ」

ii. 縮小, 侮蔑などを意味する接頭辞が付加されたもの

- kibuibui : < buibui... ki-/vi- + buibui 「価値の無いブイブイ」
kidongo : < udongo... ki-/vi- + [u]dongo 「ある特殊な土, 作品中では「人の家」を指す」
kigongo : < gongo... ki-/vi- + gongo 「こん棒」
kikoa : < koa... ki-/vi- + koa 「のどぼとけ」
kimatumatu : < matumatu... ki-/vi- + matumatu 「爪先で歩いているもの」
vichenga : < chenga... ki-/vi- + chenga 「非常に細かい破片, 細かく砕いた粒」
vigalawa : < ngalawa... ki-/vi- + [n]galawa 「小さいカヌー」
viskuta : < skuta (< scooter)... ki-/vi- + skuta 「50ccの小型バイク」

iii. 状態, 抽象性などの意味を持たせる働きをする接頭辞が付加されたもの

- kizoro : < zoro... ki-/vi- + zoro 「ブイブイを着て目だけ見せること」
maamuru : < amri... ma- + amri (アラビア語の語形変化に従っている, 単数形はない) 「神の意志」
maghani : < +ghani... ma- + ghani (単数形はない) 「長く音を伸ばして歌う様子」
majambo : < jambo... ma- + jambo (単数形はない) 「大変重大なこと, 奥に秘密が隠されているようなこと」
makarama : < karama... ma- + karama (単数形はない) 「神の予期せぬ助け, 天の助け」
maluwiluwi : < kiluwiluwi... ma- + [ki]luwiluwi (単数形はない) 「幻想, 幻影, 虚気楼」
manusura : < nusura... ma- + nusura (単数形はない) 「助かること, 危険から逃れること」

- urogi : < rogi(<rogue)···u- + rog[ue] + i 「騙すこと」
- usalihina : < salihina···u- + salihina 「神を畏れ、一心不乱に宗教を信仰すること」
- ushehe : < shehe···u- + shehe 「(イスラム教の)博士であること」

B. 動詞→名詞

i. 接頭辞+動詞語幹+接尾辞‘-i’または‘-o’

- kiimbo : < imba···ki- + imb[a] + o [ki-/vi- + R + o] 「イントネーション」
- jumlisho : < jumlisha···(ji-)/ma- + jumlish[a] + o [ji-/ma- + R + o]
「まとめ, 集合」
- mangojeo : < ngojea<ngoja···ma- + ngoje[a] + o(単数形はない) [ma- + R + o]
「待つこと」
- mjivuni : < jivuna···m-/wa- + jivun[a] + i [m-/wa- + R + i]
「誇り高い人, 高慢ちきな人」
- mmeremeto : < meremeta···m-/mi- + meremet[a] + o [m-/mi- + R + o]
「輝き, 光」
- mtapanyiko : < tapanyika···m-/mi- + tapanyik[a] + o [m-/mi- + R + o]
「(無秩序な)広がり」
- mtokoto : < tokota···m-/mi- + tokot[a] + o [m-/mi- + R + o]
「沸騰している様子」
- mwaiko : < mwaika···[m-]/mi- + mwaik[a] + o [m-/mi- + R + o]
「こぼすこと, まき散らすこと」
- rero : < rora···φ + rer[a]? + o [φ + R + o] 「見ること」
- vichopochopo : < chopa···vi + chop[a] + o + chop[a] + o(単数形はない)
[vi- + R + o] 「料理に味を調えるために加える物, おいしい食べ物」
- visokotero : < sokotea<sokota···ki-/vi- + sokoter[a]? + o
[ki-/vi- + R + o] 「味状毛」
- wiano : < wiana<wia<wa···φ + wian[a] + o [φ + R + o]
「お互いに合っていること, マッチしていること」
- wio : < wia<wa···φ + wi[a] + o [φ + R + o] 「存在すること, 「ある」ということ」

ii. 接頭辞 + 動詞語幹 (または動詞語幹 + 接尾辞 '-a') + 接尾辞 '-zi' または '-ji'

- kipalizi : < palia<paa...ki-/vi- + pali[a] + zi 【ki-/vi- + R + zi】
 「のどに何か物が上がってくる状態,吐き気を催している状態」
- kumbukizi : < kumbukia<kumbuka...φ + kumbuki[a] + zi 【φ + R + zi】
 「覚えている状態,思い出している状態」
- ukaazi : < kaa...u- + kaa + zi 【u- + R+a + zi】 「ある場所に座っている(居る)こと」
- ulemaji : < lema...u- + lema + ji 【u- + R+a + ji】 「悪霊を追い払うこと」

iii. 接頭辞 + 動詞 (語幹 + 派生接尾辞)

- mapuuzza : < puuzza...ma- + puuzza(単数形はない) 【ma- + R+a】 「馬鹿にすること,度むこと」
- mwenda : < enda...mw-/wa- + enda 【mw-/wa- + R+a】 「気のふれた人」
- utaaradhi : < taaradhi...u- + taaradhi 【u- + R】 「何もかもが気にいらぬ様子」

C. 形容詞 → 名詞

i. 接頭辞 + 形容詞

- mbivu : < bivu...m- + -bivu 「幸運,良いこと」
- unyevunyevu : < nyevu...u- + -nyevu + -nyevu 「湿り気,水気」
- upujufu : < pujufu...u- + -pujufu 「無関心なこと」

D. 名詞 → 形容詞

i. 接頭辞 + 名詞

- kileo : < leo...ki- + leo 「この頃の(但し,-a kileo の形で)」
- kimaumbile : < maumbile...ki- + maumbile 「自然の,当然の」
- kitajiri : < tajiri...ki- + tajiri 「お金持ちの(但し,-a kitajiri の形で)」

② 接頭辞が二つ付加された語

A. 名詞 → 名詞

i. 指大,多量や侮蔑を意味する接頭辞が付加されたもの

- ba-mshati : < shati...ba- + m-/mi- + shati
 【ba- : 巨大なことを意味する, m-/mi- : 大きいことを意味する】 「体に合わないほど大きすぎるシャツ」
- majipesa : < pesa...ma- + ji- + pesa(単数形はない)
 【ma- : 多いことを意味する, ji- : 前の接頭辞の意味を更に強調する】 「非常にたくさんのお金」

mijineno : < neno...mi- + ji- + neno(単数形はない)
【mi- : 多いことを意味する, ji- : 前の接頭辞の意味を更に強調する】 「意味の無い、真実性の無い多くの言葉」

ii. 縮小, 侮蔑などを意味する接頭辞が付加されたもの

vijichangarawe : < changarawe...ki-/vi- + ji- + changarawe
【ki-/vi- : 小さいことを意味する, ji- : 前の接頭辞の意味を更に強調する】 「非常に細かい粒の石」

vijiwimbi : < wimbi...ki-/vi- + ji- + wimbi
【ki-/vi- : 小さいことを意味する, ji- : 前の接頭辞の意味を更に強調する】 「非常に小さな波」

③派生接尾辞が付加された語

A. 名詞→動詞

jumuika : < jumla...jumu + ika 「集まる, まとまる」

mahanika : < mahana...mahan + ika 「たくさんの仕事に従事する」

B. 動詞→動詞

anura : < anika...an[ika] + ura 【ura : 反意化する】 「干していたものを取り寄せる」

chachafya : < chacha...chacha + fya 【fya : 他動詞化する】 「ねだってだだをこねる」

chagavyana : < chaga...chaga + vya + na 【vya : 'fya'の異形態】
「霊にとりつかれて叫び声を上げる」

demka : < dema...dem + ka 「腰を使って踊る」

dodofya : < doda...dodo + fya 【fya : 他動詞化する】 「試す, (核心部分を知るために)人に尋ねる」

emewa : < emea...eme + wa 【wa : 受動化する】 「何をしたらいいかわからなくなる」

fufurishia : < fufurika...fufur + ishia? 「(~のために)急いで食事を作る」

rovya : < rowa...ro + vya 【vya : 'fya'の異形態】 「罷らす」

twama : < tua...tua + ma 【ma : 状態化する】 「留まる, 驚む」

yongoya : < yonga...yong + oya 「ゴソゴソ動く, 小刻みに震える」

C. 動詞→副詞

yombo : < yumba...yomb + o 【R + o】 「斜めに, 傾いて」

④複合語

i. 名詞+名詞→名詞

kitikiti : kiti + kiti 「二人の人間が組んだ腕の上に人を乗せて、歌いながら踊る子供の遊びの一種, 転じて、何人かの人が一人の人間を担ぐ状態を指す(疊語でもある)」

mjalana : mja + laana 「神罰が下るような人」
 uwanadini : uwana + dini 「宗教的であること, 宗教に固執していること」
 wanakijiji : wana + kijiji 「村人(同じ村に住んでいる人を指す)」

ii. 名詞 + 名詞 → 形容詞

kijituuzima : kijitu<ki+ji+[m]tu + uzima 「成人している, 割礼も済んで大人になった」

iii. 名詞 + 形容詞 → 形容詞

kijitukizima : kijitu<ki+ji+[m]tu + kizima<-zima 「成人している, 割礼も済んで大人になった」

iv. 名詞 + 形容詞 → 名詞

njanombichi : njano<manjano + mbichi<-bichi 「ライトイエロー, レモン色」
 ukalimoto : ukali + moto 「烈火のような怒り」

v. 動詞 + 動詞 → 動詞

vundumka : vund<vunda + umka 「突然太る, 急に影らむ」

vi. 動詞 + 名詞 → 副詞

sambejambe : ① sambe<sambaa + jambe<jambo
 ② sambe<siambe<amba + jambe<jambo 「無秩序に, むちゃくちゃに」

vii. 接頭辞 + 動詞 + 名詞 → 名詞

uchwejua : u(名詞接頭辞) + chwe<chwa<cha + jua 「日役」

viii. 接頭辞 + 動詞 + 名詞 → 形容詞

manyalia : ma(形容詞接頭辞) + nya<nyauka + lia<milia 「スモークして生乾きの」

ix. 数詞 + 数詞 → 名詞

mbiliwili : mbili + wili 「つばめ」

⑤ 疊語

i. 形容詞 + 形容詞 → 形容詞

kacharakachara : kachara + kachara 「ガタガタの, ボロボロの, とても古い(擬声語でもある)」

ii. 動詞 + 動詞 → 副詞

chupuchupu : chupu<chupa + chupu<chupa 「辛うじて, 間一髪で(擬態語でもある)」
 kupekupe : kupe<kupia + kupe<kupia 「目をしばたかせて(擬態語でもある)」